



初期キリスト教の世界

松本宣郎 [著]

ローマ帝国史と心性史から 見えてくるもの

ローマ帝国史と心性史の視点から初期キリスト教史研究の地平を精力的に拡大してきた著者の、研究史的回顧を含む11の論考・講演を収録。地中海世界に生きた人々の心性、職業労働観、教会の営みなどをめぐり、当時のキリスト教をめぐる多岐にわたる論点が浮かび上がってくることに、ここ半世紀の世界的な研究の潮流が浮かびあがり興味尽きない。

◆四六判・400頁・定価3300円

松本宣郎 (まつもと・のりお)

1944年生まれ。東京大学文学部西洋史学科、同大学院で学ぶ。東北大学教授、宮城学院院長、同理事長、東北学院大学学長、東北学院理事長などを歴任。東北大学名誉教授、東北学院大学名誉教授。著書『キリスト教徒大迫害の研究』、『ガリラヤからローマへ——地中海世界をかえたキリスト教徒』、『キリスト教徒が生きたローマ帝国』ほか共編著・訳書多数。

〔目次から〕

- 第1章 初期キリスト教史研究の軌跡——迫害から社会へ
- 第2章 地中海世界におけるキリスト教徒
- 第3章 初期キリスト教における信徒の心性と生活
- 第4章 初期キリスト教における教会間交流
- 第5章 初期キリスト教における労働と職業
- 第6章 哲学者とキリスト教徒
- 第7章 イタリヤの初期キリスト教
- 第8章 煽動家としての司教たち——アタナシオスの場合
- 第9章 キリスト教徒迫害と奴隷——大迫害史料を中心に
- 第10章 初期キリスト教の周縁性と多様性
- 第11章 古代末期ローマ帝国のキリスト教化園

8月25日発売



クリスマス絵本

たどりつくまで

ロバと三人の旅

〔文〕 アン・ブース 〔絵〕 サム・アッシャー

〔訳〕 真下弥生

◆ A5 変型判・32頁・定価 1650円



危険な権力者に追われ、安住の地を求めて旅するロバと親子三人。
聖書が記す聖家族の《エジプト逃避》を現代の難民に重ね合わせながら、
不安に満ちた、しかし人の温もりに支えられた旅路を描く
今までなかったユニークなクリスマス絵本。

8月25日発売



大切なひとたちを背中に乗せて。

女の人は、赤ちゃんを抱きしめながら
男の人と話をしていました。
これまでの旅のこと。
見た夢のこと、気をつけるよう言われたこと。
赤ちゃんをいとおしむ思い、
行きすりの人のやさしさを。



土井健司著

教父学入門

ニカイア以前の教父たち

使徒教父、弁証家、アレクサンドリアのクレメンスやオリゲネス、テルトゥリアヌスにキプリアヌス等、また古代文献に表れた女性たちも視野に収めながら、現代のキリスト教の考え方に決定的な影響を及ぼした教父たちの世界へと興味深いきざなう、類書のない貴重な道案内。 四六判・定価2420円

栗田隆子著

呻きから始まる

祈りと行動に関する24の手紙

「私にとってフェミニズムと信仰はどちらも必要なものです」と語る著者が、言葉になる以前の「呻き」としか言いようのない地点から「宗教」「信仰」そして「フェミニズム」と出会う自らの生の歩みを辿る。話題を呼んだ「ほそぼそ声のフェミニズム」に次ぐ待望の第二作目。 四六判・予価2500円

雨宮栄一著

反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

〔復題〕

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシュタポに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。著名な元帥の甥の孫であり、広大な領地を所有するユンカーだった伯が、反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。 四六判・予価2700円

ジャン・カルヴァン著／森川甫・吉田隆訳

共観福音書注解

下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。 A5判・予価8500円

● 7月に出た本と雑誌

レプラと奇跡

堀忠著

脱神話化と脱医学化に向けて



聖書に登場するレプラという語はその後のキリスト教著作家たちによってどのように用いられ、結果としていかにして中世から近現代に至る概念史を形成するに至ったのか。実証的な解明を試みた貴重な労作。 ◆A5判・定価5940円

無我夢中

桜美林学園チャプレン会編著

桜美林学園の創立者 清水安三の信仰と実践



組合教会から中国宣教に派遣された清水は貧しい民衆と出会い、教育事業に乗り出し崇貞学園を開く。敗戦後も志を持続し、戦後ユニークな学園を築いた。その無我夢中で型破りな信仰と人生を活写した、現代人必読の書。 ◆A5判・定価1980円

福音と世界

◆定価6600円

8月号

「集まり」以後

寄稿者：清水知子、太田悠介、水島一憲、中井亜佐子、笹塚

コミュニオン／白井一美、川田洋／好評連載 山下壮起、

C・J・サンダース&A・ヤーバー、山口陽一、山崎ラ

ンサム和彦、宇井志緒利、田崎英明、村澤真保呂、勝村

弘也、有住航

●〇歳の人と暮らすことの大変さは、想像をはるかに上回っていました。なにせ、この夏注目のホラー映画を一作も観に行っていないのです。わずかな空き時間に予告編をネットで眺める毎日ですが、なかでも、台湾発のゾンビホラー『哭悲／THE SADNESS』は、そのことを考えない日はないくらいわたしの胸を掴んで離しません。同作のロブ・ジャバス監督は豪語します、「本当に良いゾンビ映画を二〇年近く観ていない」と。『28日後…』『新感染』のようなヒット作も、『ドーン・オブ・ザ・デッド』『クレイジーズ』のような名作りメイクも、『ゾンビランド』『シヨン・オブ・ザ・デッド』『ゾンビバー』のようなコメディも、『アイアムアヒーロー』のような邦画も……それらを超える「本当に良いゾンビ映画」とはいかなるものなのか。なるほど、残された理性からくる罪悪感のため涙を流しながら人を襲うゾンビという『哭悲』の設定はバーフェクトです。けれど個人的には、『REC』は本当におもしろかったじゃないかと言いたい。封鎖されたビルのかなでゾンビから逃げ惑う典型のお化け屋敷ムービーですが、主観映像で繰り出されるグロテスクさとスピード感はやはり群を抜いています。ただ、書いていて思ったのですが『REC』はある意味で

はゾンビ映画ではないのです。いかにもウイルス感染がゾンビ化の原因かのよいうなミスリードから一転、エクソシストものへと接続した映画は全四作のサーガを開きます。わたしにとっては好きなものも相盛りで、そういう「好き」をもっと強化したくて今日もわたしは予告編をチェックし続けるのです。(堀)

●八月一日、二〇二二年度の「キリスト教書店大賞」の発表があり、奥田知志さんの『ユダヤ、帰れ——コロナの時代に聖書を読む』が大賞を受賞しました。「キリスト教書店大賞」は、キリスト教出版販売協会が主催し、全国のキリスト教書店の店員さんが、過去一年間に刊行されたキリスト教書から「一番読んでほしい本」を投票で選びます。二〇一一年から始まり今回ですでに一二回目となりますが、小社の本が大賞に選ばれたのは初めてでした。著者の聖書の読みの深さと広さ、語り口の新鮮さが、書店の方たちに伝わったことが何より嬉しかったです。なお、関田寛雄先生の『目はかすまず氣力は失せず』も支持され、得票数で第五位でした。同書はほぼ品切れとなりましたが、近々重版の予定です。両書ともまだご覧になっていない方は、ぜひ手に取ってみてください。(小林)

福音と世界

2022年
9

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・大日本帝国の軌跡
——東アジア・民衆・キリスト教

近代成り立ち日本における民主主義 ナショナルリズム・平和——「自由民権」と「民衆」に拠つて考える 高島千代

大日本帝国は「神の国」だったのか 洪伊枊 磯石のよき近代日本 渡部和隆

「日本のキリスト教」と旧約学——一九三〇年代の浅野順一の預言者研究を中心として 役重善洋

大東亜共栄圏における「心の争奪戦」 松谷暉介

中国大陸におけるキリスト教工作——清末・日本

台湾人キリスト者と「帝国への問い」 清末・日本

統治期の教会刊行物とその歩み——三野和恵

【書評】金歌昊「積み重なる差別と貧困」 大野光明

【好評連載より】

◆フッド・スピリチュアルズ 3 …… 山下壮起

◆教会に於けるマイノリティ 5 サンダーズ、ヤーバー

◆「日本のキリスト教」を読む 8 …… 山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 9 …… 山崎ランサム和彦

◆間隙を思考する 非同時代性のために 18 …… 田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説 19 …… 勝村弘也

◆靈性のエロジーあるいは「マリヤリア」 20 村澤真保呂

◆福音のフラグメント 20 …… 有住航